横須賀製鉄所と富岡製糸場

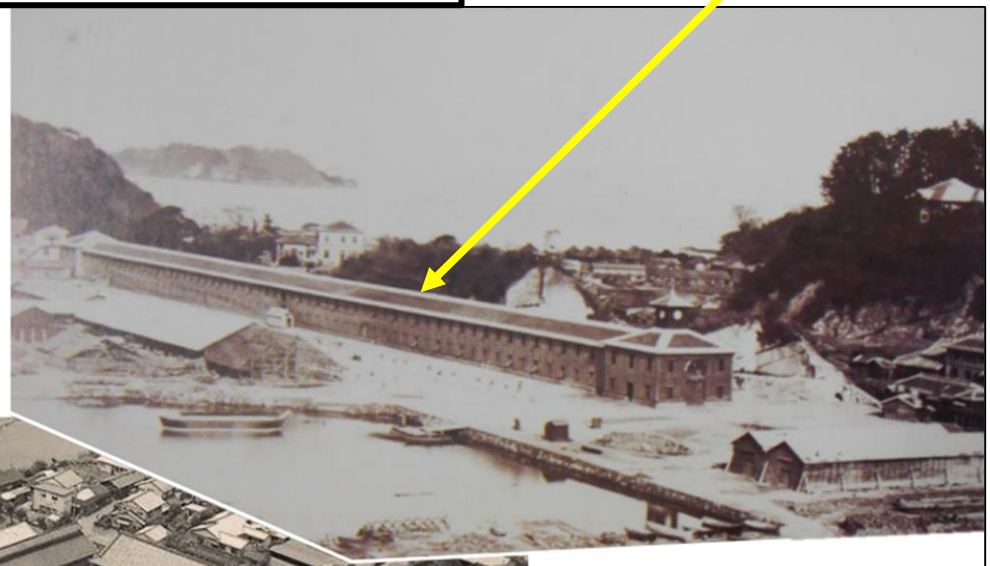
平成26年（2014年）6月に「富岡製糸場と絹遺産群」は、世界遺産に登録されました。明治5年（1972年）に完成した富岡製糸場は、当時既に本格稼働していた横須賀製鉄所（後の横須賀造船所）をモデルに建設されました。

富岡製糸場の様に吹き抜けの大きな工場を造るに、トラスト建築構造の技術が重要です。
製糸場は、この技術を横須賀製鉄所から学び造られています。製鉄所の工場と富岡の工場は非常に似ているのも納得できるでしょう。

横須賀製鉄所
製綱所
帆船等に必要な長いロープを制作するための吹き抜けの工場。

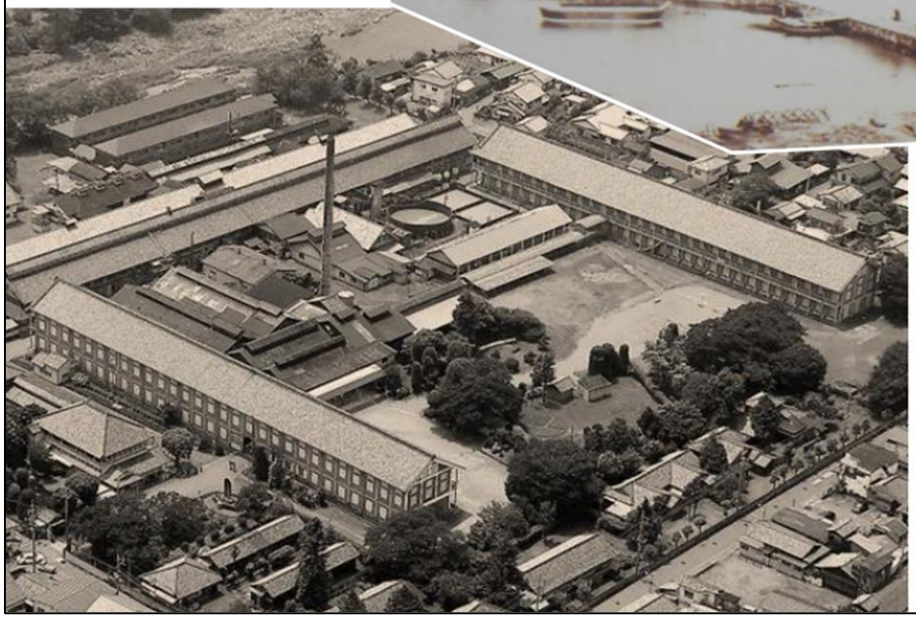
トラスト構造

注：当時のトラスト構造についてはヴェルニー公園に復元された「テイボテイ邸」の見学をおすすめします。



開国と近代化を支えた
「横須賀製鉄所・造船所」
（神奈川県）

慶應元年
1865年



世界文化遺産
「富岡製糸場と絹産業遺産群」
（群馬県）

明治5年
1872年

欧州の蚕の死滅の危機を救った日本の蚕
フランス人P.ブリュナーが富岡製糸場を建てる

●フランスのリヨンは19世紀の絹織物の一大産地だった。しかし1855年に発生した蚕の伝染病が、絹織物産業に大打撃を与えた。このころ、日本では1858年にアメリカ、オランダ、ロシア、イギリス、フランスと修好条約を締結し、開港地横浜には 多くの外国人が居留するようになる。
●ヨーロッパの蚕問題に朗報をもたらしたのは、伝染病に強い日本の蚕だった。フランス・リヨンからは多くの仲買人が来訪しが、日本における養蚕業は質の高い家内制生産であっ たため、供給が追い付かず、粗悪品も出回るようになる。
●明治に入り、近代化を急務とする明治政府は、外貨を生糸で確保することを主眼とし、西洋式の製糸場を政府直轄で建設することを決定。その指導を、横浜にあったフランス貿易会社の生糸検査人であるポール・ブリュナーに委ねる。

●1870年6月から、ブリュナーと明治政府役人は、工場建設の適地探しを行い、養蚕業が盛んで、豊富な水があり、燃料となる石炭が算出される群馬県富岡に候補を絞りました。このとき、工場建設の建設指導や建設資材の提供を行ったのが、横須賀製鉄所（造船所）です。
● 1873年6月、富岡製糸場で生産された生糸が、ウィーンで開催された万国博覧会に出品され2等賞を獲得する。
●1876年2月、ポール・ブリュナーは多大の貢献をして 離日しました。ブリュナーの家族が住んでいた館は、その後もブリュナー館として保存され、ユネスコの文化遺産の一つとなる。